

マタイによる福音書第6章16～18節

「悔い改める者の顔」

先週の金曜日、日本列島を世界最大級の地震が襲いました。地震のエネルギーは、関東大震災の約30倍、阪神淡路大震災の一千倍であったと報じられています。そのエネルギーによって引き起こされた津波による災害は、その様子をテレビで見る者に大きな衝撃を与えるものでありました。ましてや、その渦中にある人たちが受けた、また今も受け続けている艱難辛苦については言葉がありません。

また、昨日からは、被災地にある原子力発電所が、緊張と不安を引き起こしています。地震は、建物を破壊しただけでなく、原発の「安全性」をも破壊し去りました。

そして何よりも重大なことは、阪神淡路大震災では6400名を超える死者が出ましたが、今回もまた既に百名を越える死者が確認されていることです。その数字は、確認が進むごとに増大することでしょう。

こうした事態のなかで、ただ今、私どもは、マタイによる福音書から、断食に関して語られている主イエスの教えを聴きました。この聖書箇所は、一週間前に予告されていたものであって、今回の大震災に関連付けて採りあげたというわけではありません。しかし、この断食に関して語られている主イエスの教えには、今朝の私どもにとって、何か、極めて重要なことが語られているように思われます。

ここで語られている「断食」とは、食事をとらずに、水だけを飲んで、祈りに集中する生活をおくることです。主イエスが教えを語られた時代、神を信じる生活というのは、施し、祈り、断食をきちんと行うことでありました。また、初代教会のキリスト者の間でも、この三つは重んじられていました。この断食について主イエスは——断食をしなさいとは言っていないし、——断食をする必要はない、とも言ってはいません。主イエスは「断食をする時には…」と言われている。そう言いながら、断食に入り込んでしまっている間違いを正し、断食の真意を回復させようとしていられるのです。

そもそも断食はどうしてするのか。それは、苦しみ悲しみの表現であるといわれます。苦しみや悲しみが深まると、食事が喉を通らないことが私たちにもあります。そのことを逆にして、自ら食事を絶つことで、苦しみ、悲しみを受けとめる努力をしようとする、それが断食になっていったのです。

また、断食は「悔い改め」と結びつくものでありました。一般には、悪事を悔いて、正しい生き方向に向うことを悔い改めといいますが、聖書のいう悔い改めとは、恵みの神に向かうことをいいます。この悔い改めが断食と結ばれていることから、ある人は「断食とは、神への方向転換をする努力」だといいました。

しかし、こうした断食の意味が忘れられることがしばしば起りました。それゆえに、旧約聖書のイザヤ書には次のような言葉があるのです。

見よ／お前たちは断食しながら争いといさかいを起こし／
神に逆らって、こぶしを振るう。お前たちが今しているような断食によっては／
お前たちの声が天で聞かれることはない。
そのようなものがわたしの選ぶ断食／苦行の日であろうか。
葦のように頭を垂れ、粗布を敷き、灰をまくこと／それを、お前は断食と呼び／
主に喜ばれる日と呼ぶのか。
わたしの選ぶ断食とはこれではないか。
悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて／
虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。
更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え／さまよう貧しい人を家に招き入れ／
裸の人に会えば衣を着せかけ／同胞に助けを惜しまないこと。 (第58章4～7節)

神が受け入れて下さる断食とは、悪の束縛を断ち、飢えた人、さまよう貧しい人への助けを惜しまない愛に生きることだと語られています。粗布を敷き、灰をまくといった断食に伴う儀式が重要なのではなくて、救いを与えて下さる神に向き合うこと、すなわち悔い改めこそが重要なのです。そうした悔い改めがなされるならば、禁欲や苦行よりも、神への感謝とともになされる人間らしい助け合いこそふさわしいのであり、そこに断食の真意を見ることができるといえるのです。こうした断食の真意を人々の心に取戻すために主イエスはこう語られたのでした。

断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。
偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。(16節)

偽善者と訳されている原文のギリシャ語は、役者を意味します。——私は、こんなにも悲しみ、苦しんでいます、ということをお神に向かって訴えるのではなく周りにいる人たちに分るよう、役者のように演じる。だから陰気な顔つきをする、そういう偽善者の真似をよしなさい、と主イエスは言われるのです。そして、こうも言われました。

あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。(17節)

断食を長く続けていると、なにがしかの変化が身体に起こるのでしょう。髪の毛や顔につやがなくなったりもする、そうした様子を見て——ああ、あの人は断食をしている、と他人にも分るのでしょう。そのように、断食をしていることが自ずと分るのであるなら、そのままの姿でいることで良いのでは？ 頭に油を塗ったり、顔を洗ったりして、断食をしていないという顔をするのは、逆の意味で偽善者になることではないのか？ しかし、

そうしてでも断食をしていることが「人々に知られないように」ということを主イエスは強調されるのです。それは、なぜなのでしょう。

断食をするときに、あるいは、断食をしないまでも特別な祈りをするときに、そこに偽善が起り得ます。その偽善の根は何かというと「人に見てもらおう」とする思いであります。人に評価してもらいたい、人に分ってもらいたい。そういう気持ちは誰にでもあるものです。しかし、断食をしている人の思い、祈る人の思いが、神を差置いて人に向けられてしまうならば、それはもはや、神に向う断食、祈りではなくなってしまう。人に向けての演技になってしまうのです。

断食を他人に知られないようにと戒める理由について、主イエスは、はっきりと語られています。

それは、あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。(18節)

——天の父は、あなたの労苦を顧み、また、あなたの祈りを確かに聞いています。あなたの労苦や、祈っている気持ちが周りの人たちに分ってもらえないために、空しく感じられても、否、空しく感じられるときほど信じるがよい。天の父からの報いは大きい！と、そのように主イエスが語りかけて下さっていることを信じたいと思います。東日本の教会の仲間たちにも語りかけていられることを信じたいと思います。

あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。(18節)

この言葉は、主イエスが断食について新しい意味づけをしたものともいわれています。

——断食の真意としての悔い改めをしてごらんください。そうすれば、あなたは暗い顔をする必要がなくなるであろう。頭に油をつけ、顔を洗ってでも明るい顔をするようになる、というのです。

犯した過ちを追求し、さばくために手ぐすね引いて待っているような人のところに帰りたいと願う人はいないでありましょう。天の父は私どもを、人類を、さばくためにではなく赦し、神の子として迎え入れるために、イエス・キリストを十字架に犠牲とされたのです。

そうした天の父の迎え入れの中に帰って行くとき、いうなれば、天の父の腕のなかに身を投じるとき、そこで、父の愛をはっきりと悟ることになります。迎え入れてくれた父の腕のなかに帰ってきた者の顔は、安堵と感謝、喜びへと変えられるのであります。

※失われた息子のたとえの父と弟息子の姿

十字架に顕された神の愛には、いささかの変更ありません。先週から今朝にかけて、殊に3月11日においても、神の人類に対する愛は、一瞬たりとも損なわれることはなかったのです。神の人間に対する赦しが一時的に留保され、その代わりに天罰を下すなどということはありません。主イエス・キリストの父なる神は、常に私どもの父であり、人間を憐れんで下さっています。そのような愛と憐れみの神に、今、私どもは、改めて心に向け、心を開く悔い改めを必要としているのではないのでしょうか。暗い顔をしているわけにはいきません。真実の悔い改めをする者の顔は明るいのです！

今朝、『この世はみな神の世界』という讃美歌（讃美歌21 361番）をうたいました。メロディーが歌いやすく、よく好まれて歌われる讃美歌ですが、今朝はいささか歌うことに、抵抗を感じた人もあるのではないかと思います。

この世はみな 神の世界 あめつちすべてが 歌い交わす
岩も木々も 空も海も み神のみわざを ほめたたえる

このような詩を、テレビで見た、押し寄せる津波に流されていく家や車の様子を思いながら、歌うことに抵抗を感じたとしても、それはむしろ当然でありましょう。この讃美歌を作詞した人は、地震や津波の恐ろしさを知らない人であったのでは、といふかる思いすらします。しかし、それでもこの讃美歌をうたい続けることが、今の私どもにとって、自らを悔い改めへと導くことになるのです。

この世はみな 神の世界 悪魔の力が 世に満ちても
わが心に 迷いはなし 主こそがこの世を治められる

あの激流に呑みこまれた町の人々を、天の父が顧みていられます。その町の人々のためにも、主イエス・キリストは十字架で、み苦しみを受けられました。そこに顕されている天の父の愛、主の愛に心に向けながら、助け合いの務めに備え、それを果たしてまいりたいと思います。それが、今、私どもが行なうべき断食なのであります。

(2011年3月13日の主日礼拝説教 服部喜望教会牧師 田上篤志)